

第1回 燕市産業振興協議会 議事録

日 時：令和6年9月5日(木)
10時30分～12時00分
会 場：市役所2階 会議室201

参加者：鈴木会長（燕市長）

田野委員（燕商工会議所 会頭）
星野委員（つばめ商工会 会長）
中島委員（つばめ商工会 副会長）
小林委員（日本金属洋食器工業組合 理事長）
池田委員（日本金属ハウスウェア工業組合 理事長）
矢代委員（協同組合つばめ物流センター 代表理事）
本間委員（燕商工会議所 工業部会 部会長）
山村委員（燕商工会議所 女性部会 部会長）
平出委員（つばめ商工会 商業部会 部会長）
後藤委員（つばめ商工会 工業建設部会 部会長）
中上委員（第四北越銀行 燕支店長）
池内委員（協栄信用組合 理事長）
風巻委員（巻公共職業安定所 所長）
佐藤委員（公益財団法人燕三条地場産業振興センター 専務理事）
田中委員（日本労働組合総連合会 新潟県連合会 県央地域協議会
議長）
遠藤委員（燕市副市長）

事務局：産業振興部長、企画財政部長、都市整備部長、商工振興課長他

会議次第：

1. 開 会

2. 会長あいさつ 燕市長 鈴木力

経済というものは生きたもので、状況は月単位で変わっているものであるため、本協議会の主旨としては、燕市の産業の状況が今どのような状況になっているかを各業界、あるいは支援機関から情報提供、情報交換の場である。また、燕市の行政の参考にご意見をいただく場でもある。

先般、地域のシンクタンクから地域経済の報告レポートが公表されたが、物価高騰などの価格転嫁がある程度進んでいるものの、まだまだ収益性の確保ま

では至らないとのことであった。構造的な問題としての人口減少、デジタル社会への対応、人手不足などへの対応に苦慮している企業も多い中、市内企業の状況などお聞かせいただき、新年度の施策に向けて考えていきたい。

3. 議 題

(1) 燕市の今年度事業の展開等について（報告）

燕市産業振興部商工振興課より燕市の今年度事業の展開等について報告があった。

（質疑）

工場等遮熱断熱促進事業は今後も継続していくのか。

→（事務局）来年度以降については今後財政当局との協議による。

→人材確保・定着、カーボンニュートラルを目的としているものであるので継続しないと意味がないので、継続していただきたい。

工場等遮熱断熱促進補助金について、外壁のみでも効果がある工場があるので今後、外壁のみでも認めていただきたい。

C02 可視化事業は三条市の参加企業数はわかるか。

→（事務局）燕市と同程度と聞いている。

(2) 新年度施策に向けた意見交換

■C02 可視化事業、C02 排出削減について

・今後 C02 排出に係る炭素税（炭素賦課金）が導入されていく。それに向けて今から各社 C02 排出について取り組むためにもまずは可視化が重要だと思う。

C02 可視化事業についてはさらに促進していくべき。

・C02 排出削減の問題については、経営者も従業員も自分事として捉えていくことが重要。

・燕市では 2050 年までに C02 排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をしている。燕市の C02 の排出量が多いのは製造業。達成するには製造業が取り組む必要がある。

・C02 可視化の先には SBT 認証取得もある。選ばれる側の企業になるためにも SBT 認証、品質管理、工程管理の重要性を伝えていくことが大事。

・太陽光パネルについては、処分について未だ明確でない。国は早急に明確にすべきであり、市からも国に働きかけをお願いしたい。

・2026 年度に本格導入する温暖化ガスの排出量取引制度で、排出削減を達成できなかった企業が他の企業から排出枠を購入しなかった場合に課徴金を課

す調整に入った。今後もっとスピード感をもって対応することになることを見越して、地域として光っていくためには地域として率先して取り組んでいくことが必要。

- ・CO2 排出削減の取組として、施設の照明を LED 化している。

■人材確保について

- ・企業の健康経営、育児休暇などで就労規則の見直しなどを求められているが、小規模事業者にとっては経営者が忙しく、対応が難しくなっている。また、DX についてもなかなか実施できない。これらの支援策などがあるとよい。（←総務系業務については「地域の人事部」の活用もできる）

- ・燕商工会議所工業部会で小規模事業者が使えるような「キャリアプラン」のひな形を作成している。キャリアプランを示すことで人材確保につながる。

- ・仕事を辞める若い世代（30 代前）にアンケートを取ると辞める理由はハラスメントや将来性が見えないという理由がある。目先の賃金の問題もあるかと思うが、将来性が見えないという点については、キャリアプランを示すということは効果的だと思う。

- ・遮熱断熱工事や現場への空調の完備など、働きやすい職場を整備することが人材確保にとって必要。

- ・製造業ではまだまだ女性の受入が進んでいない状況。今後も女性の活躍を促進していきたい。

- ・外国人雇用について、日本人の従業員にもいい影響を与えていると思う。外国人にとって会社に定着すること、地域に定着することに大事なことは、まずは仕事があること。あとは住む場所の問題。自社では空き家をリフォームしている。

- ・7 月有効求人倍率は 1.41 倍。県は 1.4 倍、全国は 1.24 倍。人手不足感は続いている。

- ・令和 7 年 3 月の管内求人数は 496 人。巻管内の高校生で就職希望される方は例年 90 人前後であり、有効求人倍率は 5 倍になっている。人材から選ばれる企業となることが大事。

■まちなかにぎわいについて

- ・空き店舗を家賃 2～3 万円でシニアの方たちに貸出し、自分の趣味や特技で小さな店として利用してもらう取り組みを考えている。ただ、そのような人を掘り起こすことが課題。

- ・特に分水地区の商業は、高齢化が進み、空き店舗が増加している。

- ・旧燕の宮町などは製造業が中心市街地活性化を支援している。商業の方ももっと勉強していく必要がある。

- ・道の駅国上で 2 月に塞ノ神まつりを行った。地域を巻き込んで開催したこ

とはよかった。夏も盆踊りなどをまちづくり協議会と連携しながら行っていきたい。

■品質管理について

- ・品質管理の点では、TSO 取得し、ISO9001 のほか ISO45001 (労働安全衛生マネジメントシステム)取得。自社の従業員の労働安全や外部から来ている人、納入先の人など自社内での労働安全の取組を進めている。
- ・小規模事業者でもリスクアセスメントを作成し、社内で共有することが大事。品質管理と人への配慮が必要になってくる。市でも労働安全について支援してもらえるといいと思う。
- ・最近のキーワードとして、エコバディスがある。サステナビリティ（環境、労働、人権、倫理、持続可能な資材調達など）を評価する手法である。自動車関連メーカーではそれに応じた調達方針の開示が始まっている。その動きに関連企業も追従していくと見込まれ、燕市にも関係してくるので情報収集していく必要がある。

■DX について

- ・SFTC については良い取組なので今後さらに進めていくことが良い。
- ・ホテルは外資系を中心に計画が前倒しになっているが、人件費増や物価高のコスト増で設備投資に結びついていない。

■その他

- ・地場は令和 5 年 5 月から不景気が続いている。ネット販売、アウトドア用品の売上がストップした。
- ・月単位で前年比 10%減で推移している。

5. 閉 会